

第7回 Hands-on Training Workshop (Hands-on seminar in 10th HALS Group Meeting)

2019年10月19日開催

第10回 HALS グループミーティングでは、ハンズオンセミナーを開催いたしました。例年、実体験することで「非常に解りやすい」「貴重な経験ができた」と好評をいただいているセミナーですが、本年度も講師を務めていただいた先生方のレポートでセミナーを振り返ります。

■コース内容

日時	コース No.	内容	講師
10月19日(土) 13:30-14:00	A-1	HALS による結腸切除/肝彎・脾湾曲の脱転法	板橋道朗先生 (東京女子医科大学 消化器・一般外科)
10月19日(土) 14:00-14:30	A-2	HALS による低位前方切除	板橋道朗先生 (東京女子医科大学 消化器・一般外科)
10月19日(土) 13:30-14:00	B-1	HALS による結腸切除/肝彎・脾湾曲の脱転法	中原雅浩先生 (JA 尾道総合病院 外科・内視鏡外科)
10月19日(土) 14:00-14:30	B-2	HALS による低位前方切除	中原雅浩先生 (JA 尾道総合病院 外科・内視鏡外科)

■ハンズオンセミナーを終えて／板橋道朗（東京女子医科大学 消化器・一般外科）

毎年恒例となりましたHALS研究会開催直前のハンズオンセミナーを今年も担当させていただきました。シミュレーターを用いて大腸手術の基本的な内容である肝・脾弯曲部の脱転、直腸切除についてのハンズオンを企画させていただきました。ご参加いただきました先生方、誠にありがとうございました。



基本的なHALSデバイスとカメラポート、操作ポートのセットアップ方法と基本的な左手の動きについて、和気あいあいと研修がすすみました。一人に一つのシミュレータートレイが準備されており、実戦さながらの講習ができました。



私は左手にシミュレータートレイを持って、手の動きを外で再現してシミュレーショントレーニングを行っていただくなど、むしろ、シミュレーターであるから試しながらの講習でした。カメラポートとの位置関係でミラーイメージになりやすい場面展開やミラーイメージでの対処法など、極めて実践的な内容となりました。瞬間に時間が過ぎて研究会が始まりました。ご協力いただきました関係の皆様へ深謝申し上げます。ありがとうございました。



■ハンズオンセミナーを終えて／中原雅浩（尾道総合病院 外科・内視鏡外科）

グループミーティングの前にハンズオンセミナーが行われ、私は板橋先生と共に大腸手術（脾湾曲部の授動、S状結腸～直腸の授動）のHALS手技を担当させて頂きました。アプライドメディカルから提供していただいたシミュレーターは、実際の構造に極めて近く、腹腔内のワーキングスペースや腸管の大きさなどとてもよく出来ており、毎回これを使用したセミナーが開催されていますが、今回は台風19号でカメラ機器が水没してしまい私の方のカメラが使用できませんでした。



そのためアプライドメディカルのスタッフの方が苦労され、iPhoneのカメラモードで写した動画をiPadの画面上に映像で映すという方法で、何とかシミュレーターが使用できる状況でセミナーに臨みました。参加された先生は日本大学と福島労災病院の若手外科医の3人の先生でした。皆さんHALSをある程度経験されており、今回のセミナーではワンステップ上を目指し参加されたようでした。



皆さんの熱意に応えるべく私も熱意を持ってセミナーに臨みましたが、カメラ映像が途中で何度もフリーズしてしまい、セミナーが遅々として進まない状況となりました。スタッフの方達が色々と、iPhone、iPadをチェックされましたが改善はみられず、途中からは直視下でのセミナーへと変更し、3人の先生には直視下で脾湾曲部授動、S状結腸から直腸の授動の手技を勉強して頂きました。3人の先生にとっては残念なセミナーになったかもしれませんが、HALS手技のポイントは左手の使い方にあります。腹腔鏡下では画像で左手が見えないため上手な使い方の習得は困難ですが、直視下だと容易に理解、習得できます。また、今までの自分の手技を見直すこともできます。その点では今回のセミナーでも十分得るものはあったと思われれます。皆様お疲れ様でした。また、この場を借りて、機材を提供していただきましたアプライドメディカル社の関係各位の方に感謝申し上げます。

